

スポーツ現場における 心臓突然死を

0に



スポーツ中や直後の心臓突然死リスクは安静時の**17倍!**
でも、**3要件がそろえば救える可能性も高い!**

救命の 3要件

倒れる瞬間を目撃

+

そばに救助者

+

そばに AED

スポーツ現場での救命率

大阪府の
スポーツ施設



62%

東京マラソン



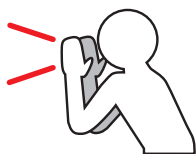
100% (11/11人)

救命のポイント

早期の

CALL

119番 CALL と AED の要請



絶え間ない

PUSH

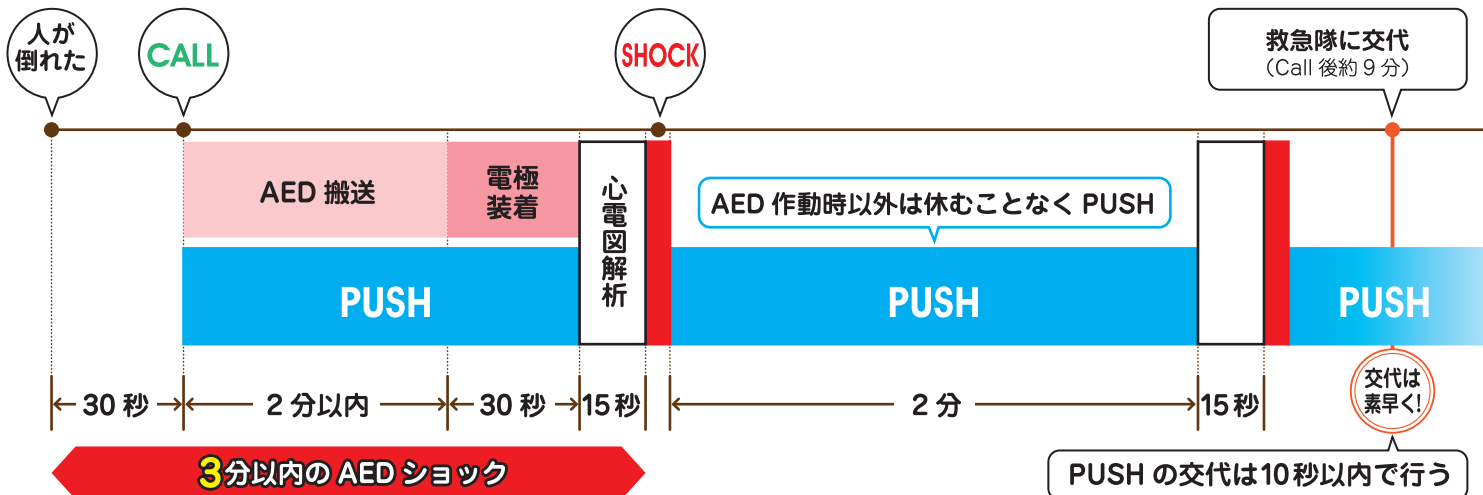
胸の真ん中をブッシュ



一刻も早い

SHOCK

AED の指示に従い、
通電ボタンを押して電気ショック



スポーツ大会開催時救命体制(市民マラソンを想定した具体案)

1 救急担当責任者を置き、事前に大会中の救命体制を整備

- (1) 救護人員：医師・看護師、救命士、その他沿道ボランティア
- (2) 会場整備：救護本部・救護所の設置、必要数の AED 確保、救急処置用具・医薬品の準備
- (3) 消防署との連携：緊急時連絡手順の確認、救急車の受け入れ態勢
- (4) 病院との連携：搬送先病院への事前訪問と受け入れ態勢の確保など

2 3分以内の電気ショックを可能にする AED 配置(環境に応じて工夫調整)

- (1) 定点配置(諸条件による、例えば 300~500m 毎)
- (2) 随走搬送(1.5~2km 毎、自転車、バイクなど)
- (3) 救護所およびゴールへの設置(5km 毎)
- (4) AED 設置場所の目印や誘導標識の設置(50m 毎)

3 参加申込時に参加者の健康状況を自己申告

持病、既往歴、アレルギー歴、内服薬、最近の症状の有無
主治医の参加許可、家族・主治医の連絡先(ゼッケン裏に記載)

4 事前に救護スタッフ・ボランティア・参加者に対し救命講習を実施

5 大会当日の参加者体調を再確認(血圧、体温、睡眠、下痢・風邪等)

6 大会挨拶や事前アナウンスにて救護体制や AED 設置場所を参加者に周知

7 スポーツ中に加え、ゴール直後や終了後も最低 30 分は異変に注意

AED の設置場所 3 つのポイント

Point 1 2分以内に届けられる環境に

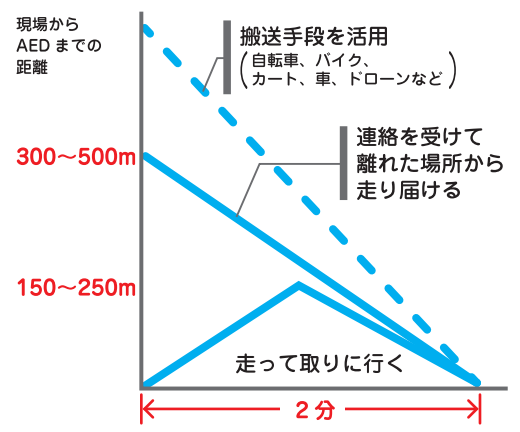
3分以内に電気ショックを行うには 2分以内に AED を届けられる環境に(電極貼付と解析充電で 1 分必要)

Point 2 誰がどう届けるか事前に計画

右図を参考にスポーツ現場のどこに何 m 間隔で合計何台の AED を設置し、それを誰がどう届けるか事前に計画準備

Point 3 選手・観客に周知する案内を

AED の設置位置を選手・観客に周知する位置案内表示を用意する



◀位置案内表示の一例